

(保育学科)

科目・担当教員	内 容 <small>※授業内容は変更になる場合があります。</small>
<p><b>保育原理</b> (渡辺一弘)</p>	<p>本科目は、保育者になるための最低限の知識、理論やスタンスを学習し、保育現場における原理と特性、環境、方法について理解していく。具体的には、特に保育思想とその歴史的変遷についてを中心的に学びながら、現代における様々な保育問題について理解する。そしてその上で、より実践的な視点から、保育者として、現場においてどう活かすのかを個々の学生に考えてもらうことをねらいとしている。さらに、保育の現状と課題や問題点、諸外国の状況についても言及する。</p>
<p><b>保育者論</b> (渡辺一弘)</p>	<p>本科目は、保育者という仕事の魅力ややりがい、意義や重要性、役割等様々な側面を理解するために、できるだけ実践の事例を取り上げて、講義を進める。幼稚園教諭、保育士を包括して保育者と理解したうえで、幼稚園教諭と保育士の違い、幼稚園教諭、保育所保育士、施設保育士それぞれにおける保育者の基本的考え方やあり方について学ぶ。保育者の役割と倫理、制度的位置づけ、保育者の専門性、専門職としての成長について学ぶ。加えて、幼稚園、保育所等からゲストスピーカーを招き、現場の保育者の専門性、成長、課題等について学ぶ予定である。</p>
<p><b>発達心理学 I</b> (菊野雄一郎)</p>	<p>保育所保育指針の発達項目、幼稚園教育要領、および小学校学習指導要領に関わる子どもの発達の理解を目標として、発達の原理、子どもの知覚、記憶、思考、言語などの側面から、子どもの発達を考える。本講義を通して、子どもとは何か、発達とは何かを考える。</p>
<p><b>子どもの保健 I A</b> (前林英貴)</p>	<p>現在の小児保健の現状と子どもの心身の健康増進を図る保健活動について学ぶ。保育専門職として、平均的な子どもの発達と評価方法を理解し、子どもの成長・発達に関する基礎的な知識について学ぶ。そのために、成人とは違う子ども特有の生理機能・運動機能・精神機能を学習しながら、子どもの健康と疾病について理解を深める。また、子どもの健康増進のために必要な知識を身に付けることで、保育者として適切な対応・支援ができる基礎を養う。</p>
<p><b>乳児保育</b> (前林英貴)</p>	<p>乳児期は、人間形成の基礎ができる重要な時期である。乳児を取り巻く環境を踏まえ、乳児保育の歴史的変遷や母子保健の統計から現状を理解する。保育所や乳児院で乳児保育（3歳未満児）を担当する保育士として、必要な保育の理論や知識、技術的な基本スキルについて学ぶ。乳児期（3歳未満児）の成長や発達、生活、遊び、環境、保健等についての基本的な知識を身に付けるとともに、低年齢児の保育の概念と意義、保育者としての関わりについて講義や演習を通して学ぶ。</p>
<p><b>教育原理</b> (矢島毅昌)</p>	<p>保育・幼児教育の実践に携わるうえで必要な教育原理の知識について学ぶ。自分の子ども観を見つめ直したり、先人の教育理論・方法を学習したり、自分の身近な経験や社会問題としての教育を論理的に考えたりしながら、教育とは何かを考えていきたい。</p>
<p><b>保育内容 表現Ⅲ</b> (梶間奈保)</p>	<p>保育者は、子どもが日常生活から感じたり考えたりする中でうまれる「表現」を見出し受け止め、それらを育てていく。そのために、保育者が多様な表現に対して理解を深め、表現することの楽しさや面白さを子どもと共有することが大切である。自身の表現の豊かさが子どもの表現の多様性につながっていく。 以上のことから、この科目では保育内容における5領域の中の1つ「表現」を土台とし、特に音楽に関わる内容について、事例や音楽表現を通して学びを深めていく。</p>

(総合文化学科)

科目・担当教員	内 容 <small>※授業内容は変更になる場合があります。</small>
<b>文化とガイド</b> (Dustin Kidd)	The goal of this class is to provide students with the vocabulary and information that will allow them to effectively describe famous sites in Shimane (mainly Matsue) in English, as well as various historical and cultural aspects of the area. It will also give the students a better understanding of and appreciation for the area in which they are living.
<b>世界の女性と暮らし</b> (塩谷もも)	ジェンダー研究の背景を学んだうえで、宗教、家族、仕事をテーマに世界各地の事例を比較しながらそれぞれの問題について、ジェンダーの視点から考えることを目的とします。女性に焦点をあてますが、テーマとなる問題は、いずれも男性にも共通したものであるため、男性も含めて社会全体の問題としてとらえていきます。
<b>アフリカ研究</b> (鹿野一厚)	「貧困」や「紛争」などの様々な困難に見舞われてきたアフリカは、21世紀にはいって大きく変貌しつつある。もちろん貧困も紛争もまったくなくなったわけではないし、エボラ出血熱など新たな困難も発生しているが、アフリカ全体を見れば5%を超える経済成長を達成し、携帯電話が爆発的に普及するなどの明るい兆しも見えている。 この授業では、最新のアフリカ研究の知見を紹介しながら、日本から遠く離れたアフリカとそこに住む人びとの経験から私たちは何を学ぶことができるのかを考えていく。